

〔代表者の声〕

## 生乳生産 10 万 t を死守したい！

おかやま酪農業協同組合  
代表理事組合長 千葉靖代

平成 22 年度は日本においても、酪農家にとっても日本の歴史に残る年ではなかったかと思います。

春の宮崎県の口蹄疫を皮切りに、夏の記録的な猛暑、秋には突如として発生した TPP への参加問題、冬には大雪・厳寒、とどめは 3・11 の東日本大震災の発生。

テレビのニュース、当事者の話を聞くたびに涙が出ます。

被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

特に、福島第 1 原発の放射能漏れによる風評被害が大きな課題となっている一方で、牛乳、乳製品の価値が高くなっているものの、今後の需給関係がどうなるか全く読めない状況となっています。

さて、生乳生産についてですが、平成 22 年度は、前年対比で北海道は 99.1%、都府県 94.4%、全国 96.7%、中販連も上期は計画比オーバーで推移しましたが、終わってみれば、前年比 96.1%、計画比 98.8% で未達でした。

おかやま酪農協は 10,658t で、計画比 98.7%、前年比 96.2% で、平成 21 年度に比べ、4,000t もの減産で、残念な結果となりました。

長年、飲用牛乳消費の減退により、乳製品の在庫過剰等で減産型の計画生産が続きましたが、ここに来て適正在庫に近づき、平成 23 年は増産計画が決まっています。

中販連から前年対比 102.0%、101,415t の枠がおか酪に配分されました。

平成 22 年度現在、搾乳戸数 341 戸の生産実績は 99,403t です。皆さんからの希望数量は配分します。後継者を中心にほぼ青空天井で搾って頂き、平成 23 年度 10 万 t の大台を是非、死守したいと思います。

おか酪としても、緊急導入対策事業、暑熱対策等を進めてまいります。

本年も、TPP 参加問題、トウモロコシ等原材料の高騰、輸入粗飼料の在庫不足、為替の動向等不安材料は一杯ありますが、乳価はほぼ据え置きの方です。

平成 19 年、20 年の危機的な状態は脱しました。

早く元の健全経営をめざし頑張ってくださいをお願いいたします。